

I. 特集 立教サービスラーニング(RSL)とその先にある学び

本特集は、立教サービスラーニング(RSL)の実践系科目を履修した学生が、その後の大学と社会での経験の中で、サービスラーニングの経験を振り返りながら、何に向けて、どのように学んでいるのかを、当事者である学生自身の言葉で言語化する試みである。なお、このテーマは、2018年度からの継続である。

RSL センターでは、RSL 科目の履修を通じて学生が身につける能力として、「社会と向き合う自分自身の視点」「社会の一員としての責任感と態度」「協働の技法」「経験を学修に接続する姿勢」を掲げている。また、立教大学では、大学でのあらゆる学びを、学生の関心に応じて有機的に結び付けていくことを特徴とする「RIKKYO Learning Style」という学びの仕組みのもとで、4年間の学生生活を「導入期」(学修の基礎を身につける)、「形成期」(さまざまな経験を重ねて視野を広げる)、「完成期」(将来の目標を見据えて専門分野を究める)という3つの期間に分けて段階的に学ぶことが期待されている(立教大学, 2022; 立教大学, 2023)。そのため、RSL センターとしても、これらの立教大学全体、RSL センター独自の目標をふまえ、RSL 科目を履修した学生のサービスラーニングの学びの成果を確認していくことが課題となる。また、「形成期」にサービスラーニングを経験した多くの学生が、「完成期」に向けて、サービスラーニングの先にある学びを考えることができるよう、その環境を整えていくことも課題である。2018年度から続く本特集のテーマ設定には、このような課題への応答という側面もあるように思う。

以下、本特集の前半では、学生の体験談の背景として、2023年度に開講されているRSL 実践系科目6科目について、科目名、日程、担当者、履修者定員、内容などの概要について簡単な紹介を行っている。そして、後半では、「立教サービスラーニング(RSL)とその先にある学び」という本特集のテーマの下、前年度(2022年度)のRSL 実践系科目の科目履修者によって執筆された「RSL-コミュニティ(池袋)」「RSL-コミュニティ(埼玉)」「RSL-ローカル(南魚沼)」「RSL-ローカル(地域共生)」「RSL-グローバルA」に関わるサービスラーニングの体験にもとづく報告を掲載している。なお、2022年度はコロナ禍のため「RSL-グローバル(フィリピン)」は休講であったが、正課外活動として、フィリピンのアジア・トリニティ大学を拠点とする2週間のサービスラーニングのプログラムに7名の学生が参加した。そのため、これらの学生にも、同様のテーマでの原稿の執筆を依頼した。

最後になるが、学生の学びを支えてくださった関係団体・個人、原稿執筆を引き受けてくれた学生に感謝を申し上げる。また、読者の皆様には、ぜひ、学生たちの力作をご一読いただき、率直な感想を聞かせていただきたい。立教大学には「専門性に立つ教養人の育成」という考えのもと、学生ごとに、多様な学びが実践できる仕組みがある。そのため「サービスラーニング」の視点が、立教大学における学生の学びにどのような効果を生んでいるのかという点について、学生の具体的な経験を参考に、皆様との議論を深めていきたいと考えている。

(文責:山田寛之)

参考文献

- ・立教大学(2022)『RIKKYO UNIVERSITY 2023 GUIDEBOOK』, p.34-35.
- ・立教大学(2023)「立教サービスラーニング(RSL):立教大学の教育の仕組み」
https://www.rikkyo.ac.jp/education/system/service_learning.html(アクセス:2023.11.14).